

京北の未来若者が議論

北桑田高生と京大生 活性化へアイデア

高校生と大学生が世代を超え、京都市右京区京北地域の未来を話し合う催し「まちおこしワッショイ」が11日、北桑田高(同区京北下弓削町)で開かれた。白熱した議論を通して、活性化へのビジョンをともに考えた。

京北で地域づくりなどを学ぶ京都大の学生と、北桑田高の生徒が実行委員会を立ち上げ、初めて開催した。

住民や行政関係者を含め約90人が参加し、京北の良さや問題点をグループごとに議論した。

高校生からは「今を変えずに保持していきたい」「自然の豊かさや人柄が大好き」などの声上がる一方、少子高齢化への危機感や、仕事が少ないことへの不安の声が漏れた。

部の高校生を対象にした自然散策ツアーや、動植物と触れ合える「京北ネイチャランド」を作るアイデアが出た。京大生も「知名度を上げるため、もっと情報発信を」「自然を生かした取り組みが必要」などと提言した。

北桑田高2年の高乗賢汰君(16)は「友達に京北の良さを伝えるなど、小さいことをこ



理想の京北やそれに近づくためのアクション、課題などを議論する学生と生徒たち(京都市右京区京北下弓削町・北桑田高)

つこつ頑張ればいつかは」と話していた。(森静香)